



# いしかわ労福協

第 501 号 2009年10月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会  
 発行責任者 上田弘志  
 編集人 宮下 亮  
 〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号  
 電話 (076) 231-1737  
 FAX (076) 231-1731  
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>  
[info@ishikawa-rofukukyo.jp](mailto:info@ishikawa-rofukukyo.jp)  
 毎月1回 25日発行  
 定 価 一部 20円  
 昭和39年3月30日 第三種郵便物認可

## 平成22年度 石川県及び市町の施策に対する要請

# 知事、市町長らを訪問要請



10月26日 谷本正憲県知事に要請＝石川県庁

労福協や北陸労金、全労済、労信協、生協連、勤体協、勤文協、介護ボランティアセンターが取り組んでいる「平成22年度石川県及び市町の施策に対する要請」は、10月6日～9日にかけて石川県市長会・町長会や連合石川地方議員団に所属する県・市・町議会議員、県内全自治体の労働関係窓口となる担当者に対しての説明会を終えた後、自治体訪問要請行動を展開した。

要請行動は10月20日、能登地区の3市5町を皮切りに、21

日は能登地区の2市2町を訪問、23日には加賀地区の4市2町、26日には石川県の谷本正憲知事、27日は金沢市の山出保市長をそれぞれ訪問・要請した。

各自治体で対応した首長や副市長、副町長、担当局長・部長・課長らに対し、平成22年度における「政策関係要請事項」の各要請項目について説明し、特に「少子化対策、子育て支援について」として緊急サポートネットワーク事業廃止を視野に、新ファミリーサポートセンターへ円滑に移行するための具

体的な対応を要請した。また、運営助成金等要請事項として各種補助金、出資金についても協力を求めた。

各自治体は「財政事情が引き続き厳しい状況ではあるが、要請の主旨を理解し、来年度の予算編成に向け、できる限りの努力をしたい」との回答があり、一様に対応の厳しさがうかがえた。

なお、訪問時には上田理事長をはじめ、当該議会議員と地域LSC役員が同席した。

**(3ページに要請書(要旨)を掲載)**



10月27日 山出保市長に要請＝金沢市役所



## 県内の各自治体を訪問要請



(内灘町) 八十出泰成町長



(津幡町) 産業経済課



(かほく市) 油野和一郎市長



(宝達志水町) 産業振興課



(羽咋市) 山辺芳宣市長



(中能登町) 企画課



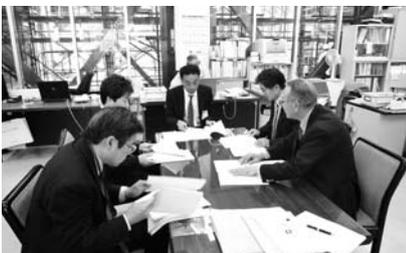
(七尾市) 産業政策課



(穴水町) 産業振興課



(輪島市) 産業部



(珠洲市) 産業振興課



(能登町) 持木一茂町長



(志賀町) 商工観光課



(野々市町) 田中 宣副町長



(白山市) 魚 直樹副市長



(川北町) 産業経済課



(能美市) 酒井悌次郎市長



(小松市) 経済環境部



(加賀市) 地域振興部

## 平成22年度「石川県及び市町の施策に対する要請書」(要旨)

### I. 石川県に対する要請事項

#### <政策関係要請事項>

#### 1. 少子化対策、子育て支援について

平成22年度末の「緊急サポートネットワーク事業(廃止)」を視野に、緊急サポート事業を新ファミリーサポートセンターへ円滑に移行するため、本年7月14日に県と関係自治体、労福協で「移行連絡会」が発足しました。

県内各地で子育て支援を必要とする利用者の期待に応えるため、県として、引き続き市、町に対する指導、調整を要請します。

#### 2. 雇用対策、就業支援について

昨年秋からの急激な経済不況による雇用環境の悪化で、「派遣村」に象徴される非正規労働者の失業に端を発し、本年7月完全失業率が5.7%(全国)石川県内でも有効求人倍率が過去最低の0.47倍となる等、厳しい状況が続いています。

県内における雇用環境の改善に向けた「石川県緊急経済・雇用対策会議」の実効ある施策の検討、実施を要請します。また、当労福協の「ジョブいしかわ」に対する情報提供と助言、県の担当部門との連携を要請します。

#### 3. 中小企業労働者の福利厚生の上について

県内の中小企業に働く勤労者の福利厚生の上で大きな役割を果たしている「金沢勤労者福祉サービスセンター」は、国の補助制度見直しにより平成22年度で補助金が廃止となり、自立化が喫緊の課題となっています。

現在、金沢市が主体となり内灘町が加入していますが、サービスセンターの会員、事業所は6市6町にまたがっており、事実上「広域化」が図られています。したがって、県として各市町に対し、センター加入を促進するなど広域化に向けた支援を要請します。

#### 4. 食の安全について

国の食品安全基本法制定から6年が過ぎ、全国的には24都道府県で食品安全の条例を制定、1県で検討中など、食品安全行政の充実強化が進んでいます。

石川県においても、内外情勢の変化から条例制定を進めるなど、さらなる食品安全行政の充実強化を要請します。

#### 5. 消費者行政の充実強化について

本年9月に消費者庁・消費者委員会が設置され、消費者行政の一元化が進められています。国の省庁間の連携と同時に、国と県・市・町の連携も重要です。

県のリーダーシップ発揮により、自治体の「消費者行政活性化計画」の完全達成など、さらなる消費者行政の充実強化を要請します。

#### 6. 連合石川の「2010年度石川県要請」について

連合石川が提出した「2010年度石川県要請」に対して、県として誠意をもって回答されるよう要請します。

### II. 市および町に対する要請事項

#### <政策関係要請事項>

#### 1. 少子化対策、子育て支援について

当協議会が運営しています「緊急サポートネットワーク事業」が平成22年度をもって廃止されることに伴い、現在、当事業の利用会員として登録している子育て世代の皆さんの要望と期待に応えるため、その受け皿として各自自治体の体制整備を要請します。

(1)ファミリーサポートセンター設置の自治体におかれましては、①厚労省の新ファミリーサポートセンター構想に基づく、病後児預かりの準備と実施、②現在のファミリーサポートセンター利用者に対する補助制度の充実、新設を要請します。

(2)ファミリーサポートセンター未設置の自治体におかれましては、地域実態を加味した子育て支援施策の検討と実行を要請します。

#### 2. 中小企業労働者の福利厚生の上について

県内の中小企業に働く勤労者の福利厚生の上で大きな役割を果たしている「金沢勤労者福祉サービスセンター」は、国の補助制度見直しにより平成22年度で補助金が廃止となり、自立化が喫緊の課題となっています。

現在、金沢市が主体となり内灘町が加入していますが、サービスセンターの会員、事業所は6市(金沢市、白山市、加賀市、小松市、能美市、羽咋市)6町(内灘町、野々市町、川北町、津幡町、穴水町、能登町)にまたがっており、事実上「広域化」が図られています。各市・町の中小企業で働く人達の福利厚生向上のため金沢勤労者福祉サービスセンターへの加入を要請します。

#### 3. 地域ライフ・サポートセンターに対する支援要請について

当協議会の支部組織である「地域ライフ・サポートセンター」は現役労働者と退職者が一体となって、県内9地域でスポ・レク事業、ボランティア等の活動を展開し、福祉の向上を目指しています。

少子高齢化社会の中で、子育て支援・緊急サポートネットワーク地域センターの役割や高齢者福祉の一翼を担っている各センターに対する支援と協力を要請します。

#### 4. スポーツ、文化事業に対する支援要請について

(1)当協議会の石川県勤労者体育協会、石川県勤労者文化協会が主催するスポーツ競技会や美術展等の事業に対して、各市・町の共催・協賛・後援を要請します。

(2)各市・町が運営する運動場、体育館等公共施設の利用に際して、使用許可および使用料の減免措置等の配慮を要請します。

#### 5. 消費者行政の充実強化について

国は、本年9月に消費者庁・消費者委員会を設置し、消費者行政の強化に努めています。

また、地方自治体には「消費者行政活性化基金」を設立し、「消費者行政活性化計画」の作成を求めました。

石川県内の全自治体はこれに応じ、すでに作成を終えています。「消費者行政活性化計画」の完全達成など、さらなる消費者行政の充実強化を要請します。

#### 6. 高齢者、独居老人宅に対する生活支援について

金沢市では、高齢者、独居老人宅のゴミ出しや除雪など生活支援のあり方を検討するため高齢者の地域コミュニティを検討する委員会が設置される予定です。

各市、町におかれましても、より一層進む高齢社会に対応するため「高齢者地域コミュニティ検討委員会(仮称)」を設置し、ゴミ出しや除雪など高齢者の生活を取り巻く諸課題の対策を協議し、住民福祉サービスの向上を図ることを要請します。

III. 「運営助成金等要請事項」として労福協は助成金及び出資金、地域LSCの運営補助金等を要請。また、各事業団体からは、勤労者貸付金制度、小口資金融資制度、育児・介護休業資金融資制度の制度金融資金等利子補給補助金(労金)、補助金及び運営資金・長期設備資金(生協連)、補助金の措置(勤体協、勤文協)等を要請した。

## 勤体協主催 第43回秋季体育大会

石川県勤労者体育協会主催の「第43回秋季体育大会」が相次いで開催された。

「ソフトテニス大会」は、8月30日小松市末広コートで男女13チーム85名が参加し、団体男子はテイム井出が初優勝、女子はふたばクラブが5連覇を飾った。

「相撲大会」は、9月6日津幡町相撲場で開催され、団体は加賀市が優勝、個人一般では坂下昭徳氏(能登町)、個人青壮年では小林義博氏(金沢市)が優勝した。

「バドミントン大会」は、同日小松市末広体育館で男女112名が参加し、ダブルス戦とシングルス戦に熱戦を展開した。男子単で川之上泰則氏(小松協会)、女子単で越野佳代氏(勤体協)が優勝した。

「パークゴルフ大会」は、9月13日松任海浜公園PG場で男女288名が参加し、団体戦男子は「さわやかチーム」が、女子は「根上コスモス」が優勝した。個人戦で

は男子が滝本光紀氏(加賀市)、女子は吉原恵子氏(能美市)が制した。

「マレットゴルフ大会」は、9月20日専光寺ふれあいの森ゴルフ場広場で開催され、男女116名が参加した。男子は中堀輝雄氏(金沢市)、女子は中山和可子氏(白山市)が優勝した。

「シニアソフトボール大会」は、9月20日5チームが熱戦を展開し、決勝では鶴来シニアが町野シルバーを下して初優勝した。

「剣道大会」は、9月23日羽咋市武道館で開催され、団体戦は北陸録警Aチーム、個人戦も同チームの佐藤博之選手が優勝、各々3連覇を果たした。

「9人制バレーボール大会」は、10月11日加賀市スポーツセンターで開催され、男子はBBチーム、女子V☆Lチームとともに小松勢が優勝した。

「ソフトボール県決勝大会」は、10月11日専光寺ソフトボール場で開催され、輪島・七尾・小松・金沢の各地区予選を勝ち抜いた12チームが熱戦を展開した。A組ではテッカーズ、B組では金沢市従がそれぞれ優勝した。

## 第28回勤労者団体登山

今年は10月3日(土)～4日(日)にかけて、南アルプスの日本百名山でもある仙丈ヶ岳(3033m)へ、中高年男女27名パーティが挑戦した。3000mを越す高さ故か、もしかしたら今夏の大雪山系トムラウシ山大量遭難の影響なのか、例年になく参加者の少ない催行となった。

観光バスから南アルプス林道バスに乗り換えて、長野県山梨県の県境にある北沢峠の登山口まで約1時間。心配された雨も降らず、展望のあまり良好とは言えないシラビソ・ダケカンバの樹林帯をひたすら登ること2時間、五合目(大滝の頭)に到着。ここから右方向にトラバースする形で藪沢小屋を経て、宿舎の馬の背ヒュッテまで1時間15分で到着した。平均60歳超の中高年パーティとしてはまずまずの出来映えと言えるかも。

夜には満天星が見られるも、真夜中には突風が板壁や窓ガラスを激しく打つ。しかし、朝5時には何事もなかったかのように風も止み、一片の雲もない絶好の秋晴れとなった。馬の背ヒュッテの皆さんの温かいお見送りを受けながら、仙丈ヶ岳頂上を目指して登山開始。1時間30分で頂上に到達、180度視界良好、南アルプスはもとより富士山も眼前に迫り、中央アルプスや遠く槍・穂



高の北アルプスも稜線が見えるほど、まさに雄大そのものである。

小仙丈ヶ岳経由のルートで、北岳・甲斐駒・鳳凰三山の展望を楽しみながらの下山となった。爽やかな秋風を受けての岩稜伝いも心地よいものがある。大滝の頭からは登りと同一ルートで馬の背ヒュッテを出てから約5時間、「中高年、体力よりも気力でカバー」の合い言葉通り、全員が無事に北沢峠に下山した。天候に恵まれたためか、例年よりも皆さん元気でかなり余力を残していた。

帰りには、林道バス発着場の仙流荘でのんびり温泉入浴、登山の疲れを癒した後、バスに揺られて午後8時過ぎに金沢に帰着。皆さん大変ご苦労さまでした。

勤労者体育協会事務局長 中野俊一

事務局日誌

開催日	曜日	会議・行事	開催場所
10月1日	木	中部・会館協幹事会 地方労協・事業団体合同会議(～2日)	三重 静岡
10月3日	土	日本海・子育て支援メッセ	県総合SC
10月4日	日	知事と少子化を考える県民の集い	県地場産
10月5日	月	事務局会議	事務局
10月6日	火	石川県市長会・町長会事務局への要請	
10月7日	水	石川県議員団懇談会 金沢・内灘・野々市・市町議員団懇談会	フレンドパーク石川 和倉のと菜
10月8日	木	能登地区自治体担当者懇談会 能登地区市町議員団懇談会	
10月9日	金	加賀地区自治体担当者懇談会 小松・能美・加賀・白山市議員団懇談会	ホテルサンルート小松 "
10月10日	土	ろうきんフェスタ2009	県産展
10月11日	日	緊サボ・会員交流・芋掘り	金沢市内
10月14日	水	食・みどり・水ネット第5回幹事会	連合石川

開催日	曜日	会議・行事	開催場所
10月15日	木	中部・役員研修会(～17日)	秋田県・宮城県
10月16日	金	第7回福祉グラウンド・ゴルフ中央大会	かほく市 高松グラウンドゴルフ場
10月18日	日	県LSC研修会(里山フェスタに参加)	金沢市夕日寺自然公園
10月20日	火	能登地区自治体要請行動(1日目)	内灘町～穴水町
10月21日	水	能登地区自治体要請行動(2日目)	輪島市～志賀町
10月22日	木	第30回ユニオントラベル協力委員会 労協第4回理事会	フレンドパーク石川 フレンドパーク石川
10月23日	金	加賀地区自治体要請行動	野々市町～加賀市
10月26日	月	石川県知事への要請 3県連合、労協、労金連絡会議	県庁 労金
10月27日	火	金沢市長への要請	金沢市役所
10月30日	金	石川労協第4回理事会	フレンドパーク石川
10月31日	土	第40回石川県消費者大会	労済会館

# 子育て支援 いしかわ緊急サポートネットワーク

## 日本海・子育て支援メッセ

10月3日(土)「日本海・子育て支援メッセ」が昨年同様、いしかわ総合スポーツセンターにおいて開催された。

（財）いしかわ子育て支援財団主催である今回の開催は、「地域も企業もみんなで子育て支援を」というテーマをメインに、150の企業・関係団体がPRブースに出展し、子供連れの家族を中心に約8,000人ももの来場があった。

労福協では、PRブースにパネルやポスター・チラシを展示するとともに、風船600個を来場した子供たちに配り、親にはチラシを渡し、緊急サポート事業の大々的なPRを行った。当日は、利用会員やサポート会員親子も顔を見せ、育児用品リサイクルや会場ステージ、バルーンドームなどで終日賑わった。

緊急サポートアドバイザー 直江圭祐



## 緊サポかなざわセンター 会員交流「芋掘り大会」

10月11日(日)午前10時、晴天の秋空の下「緊急サポートかなざわセンター」が利用会員とサポート会員の交流を目的に、金沢市粟ヶ崎地区で五郎島金時の「芋掘り大会」を開催した。

3回目となる今年は40家族、120名の親子が参加し、会員相互の親睦と金沢名産・五郎島金時の芋掘りを楽しんだ。当日は、会場のテント前で才田巖専務理事が挨拶し、近くの畑へ移動。生産者の忠村喜恵長さんから芋掘りのコ



ツを聞いたあと、一斉に芋掘りを開始、小さな子供から親まで畑のあちこちから大きな歓声が上がった。子供の小さな手では土の中深くまで掘るのは大変なようであったが、「でかい芋や〜」と一生懸命に掘っていた。

芋掘りのあと、参加者はテント前で事務局が用意したメツタ汁と持参した弁当を親子で囲み、シャボン玉やおもちゃ交換を楽しんだ。メツタ汁は4杯もおかわりする子供がいるなど好評で最後に、参加者は掘った芋をお土産に持ち帰り、大好評のうちに終了した。

### 会員募集状況／サポート状況 2009年9月現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	11	8
わじま	2	12	4
ななお	7	4	0
はくい	4	6	0
かほく	18	61	14
かなざわ	162	403	453
はくさん	36	81	10
こまつ・のみ	20	40	29
かが	0	0	0
計	255	618	518



金沢地域LSCと北陸労働金庫本店・金沢南支店・金沢西支店・県庁出張所が主催する「お客様感謝祭『ありがとう ろうぎんフェスタ2009』」が10月10日(土)、金沢市の県産業展示館2号館で行われた。

今年で4回目となるフェスタの会場では、手品・ジャグリングなどの演芸や野菜の即売、折りたたみ自転車10台等が当たるお楽しみ抽選会、ろうぎんカード提示のお客様に粗品プレゼント、バナナ叩き売り、まぐろ解体即売など多彩な催しが繰り広げられた。

午前10時に開場したフェスタには、一般市民やろうぎん友の会、連合組合員の家族連れ等約1,800名が来場し、秋晴れの日を楽しんだ。また、LSC役員や各店の推進委員・連合金沢・労金・全労済・労福協等の役職員がお世話する各コーナーは、参加者で賑わった。

同会場では、金沢地域LSC主催の「ファミリーふれあい書画展」も開かれ、幼児から中学生までが制作した書や水彩画など151点を展示。勤文協顧問の杉村雄二郎氏(画)・氷田清風氏(書)との合評と表彰式も盛大に行われた。

金沢市従組の兼六太鼓で威勢よく開演した会場中央のステージでは、岡崎由紀子(フリーアナウンサー)さんの司会で、連合石川構成組織や事業団体の職場の仲間が所属するクラ

# 「ろうぎんフェスタ2009」 1,800人が来場

ブチームがジャズ・フォークソング・エレキ・トランペットの清らかな演奏を行った他、YOSAKOI、マジックショーを披露し会場を盛り上げる等、終日、舞台上で熱演が続いた。また、北陸労金金沢西支店の竹中宏昭氏が、融資・預金の労金利用を訴えPRした。

会場では87キロのマグロ解体即売会やバナナの叩き売りに長蛇の列となる盛況ぶりとなり、その他、NPOライフクリエイイトの手づくりパン販売・浅野川の氾濫で水害に遭った湯涌地区の野菜が並んだ「朝市コーナー」や赤提灯の縁日コーナーやボールプールとおもしろ自転車で遊べる「ちびっこゾーン」に歓声が上がリ、たこ焼き・焼きそば・ラーメン・そば等の「飲食休憩ゾーン」、鶏卵・トイレットペーパー・砂糖・カップラーメン・洗剤等を特別価格で販売する「物価にチャレンジコーナー」が設けられた。また、パンダリす・とら・ねこの縫いぐるみ4体が来場者の人気を集めた。

最後は、YOSAKOI「うちなだ愉快的仲間たち」の華麗な演技でフェスタを終宴した。

なお、これに先立ち、当日各ポジションを担当した労金職員5名が10月6日、テレビ金沢の「30秒出前コマーシャル」に出演し、フェスタをPRした。

金沢地域LSC事務局長 谷内英明



# 第7回福祉グラウンド・ゴルフ中央大会 秋晴れのもと269名が熱戦



石川県労働者福祉協議会ライフ・サポートセンター主催、ろうきん友の会・石川県障害者スポーツ協会共催、石川県グラウンドゴルフ協会・北國新聞社後援による「第7回福祉グラウンドゴルフ大会」が10月16日(金)秋晴れに恵まれたかほく市ニツ屋の高松グラウンドゴルフ場で開催された。

競技場には珠洲から加賀の各地域ライフ・サポートセンターで予選を勝ち抜いた選手239人(1人欠席)と石川県障害者スポーツ協会より30人を招待、計269人の選手が集合、個人戦と団体戦(5人1チーム)で順位を競った。

開会式では上田弘志石川労福協理事長、ろうきん友の会長岡次郎会長、石川県障害者スポーツ協会杉森重廣副会長がそれぞれ挨拶、開進競技委員長のが注意事項を説明した。また、上田、



長岡、杉森の3氏による始球式が特別コースの1番で行われ、競技を開始した。



始球式

今大会は能登コースと宝達山コースを使用し、ゆったりしたコースを設定し、32ホールのストロークプレーで行われた。

最後に、表彰式とお楽しみ抽選会を行い、宮下亮労福協常務理事の挨拶で閉会となった。



競技委員長

県LSC事務局次長 谷内英明

## グラウンド・ゴルフ中央大会成績表

個人戦

男子の部	優勝	松本 裕行	63点(ホールインワン3個)河北 A
	準優勝	森山 政次	67点(ホールインワン3個)河北 D
	三位	助田 俊勝	67点(ホールインワン3個)小松能美小松B
	四位	和田 幸雄	68点 加賀C
	五位	西 昇	68点 河北B
女子の部	優勝	増田真喜子	65点(ホールインワン3個)小松能美能美D
	準優勝	松任 文子	67点(ホールインワン2個)小松能美能美C
	三位	谷口 律子	67点(ホールインワン3個)羽咋C
	四位	村井 妙子	68点 白山野々市 D
	五位	南 カヅ子	69点 七尾鹿島C



個人上位入賞者(女性)



個人上位入賞者(男性)

団体戦

優勝	河北LSC Aチーム	354点(田中よし子、松本裕行、桜井弥三二、笠谷博、能口哲夫)
準優勝	小松能美LSC 小松Bチーム	370点(川畑正勝、山口勇、助田俊勝、二口谷勇、大上耀子)
三位	白山野々市LSC Bチーム	370点(片岡勝、前田儀一、横西勇、西野哲子、横西紀子)
四位	河北LSC Dチーム	372点(森山政次、宮下富美子、吉川武久、間戸正子、桜井泰子)
五位	河北LSC Cチーム	372点(新南昭治、西川秀雄、上野秀之、林幸子、杉村修)



団体の部上位入賞者

お楽しみ抽選会 30名

県LSC事務局次長 一明政行

## 「いしかわ里山保全ワーキングホリデイ」 事業団体、地域LSCから参加

第7回LSC研修会を10月18日(日)に行った。今回は、労福協・ライフ・サポートセンターとして新たな活動として取り入れた「環境保全」の一環である、里山保全ボランティアを理事会、事業団体、地域LSCが一体となって経験し、今後、全県に広げていくことを目的に行なわれた。当日は、金沢市夕日寺町の夕日寺県民自然園でいしかわ里山実行委員会(事務局：石川県環境部自然保護課)が主催する「いしかわ里山フェア」の「里山保全ワーキングホリデイ」に、労福協の各役員、LSCと事業団体の北陸労金、全労済、勤文協、さわやかUから23名が参加した。

作業の前に、里山リーダー会の西田リーダーからレクチャーがあり、「山は自然の源だが、今は誰も管理しない。荒れた山は人間の体で言うと、貧死の状態にある。」と、山の保全活動の重要性を訴えた。



当日は、朝から雷もなる土砂降りの雨で、作業は、県民ボランティア約30名も一緒に加わり、里山を守るNPO法人いしかわ里山保全活動リーダー会のメンバーの指導の下、山の斜面の笹刈りに精を出した。約1時間30分の作業は、雨が降る中で斜面の笹刈りは足下が滑り、大変な作業となったが、全員ケガもなく終了した。

その後、全員が昼食のカレーライスをはおぼり、里山の大切さとボランティア体験は終了した。

## 石川労働局・石川県・石川県雇用支援協会 生涯現役シンポジウム

石川労働局、石川県、(社)石川県雇用支援協会の主催で「生涯現役シンポジウム」が10月22日(木)石川県地場産業振興センターで開催された。

シンポジウムには、雇用対策に取り組む団体や就職希望者など約240名が集まり、コンベンションホール満員になる盛況であった。前段には記念講演として「人生二毛作“笑う会社に福来たる”」を演題に、(株)オフィス・なかがわ代表でNPO法人お笑い研究会プロデューサーの中川正雄氏の講演があった。70歳まで現役での雇用確保が必要であり、長い経験を活かした「人間力」が大事であると主張したが、各企業ともその体制にもっていく現状にはないし、非常に困難な課題でもあると話した。

後段では、「生涯現役シンポジウム」として企業経営者、石川労働局、労働組合、雇用支援



団体からパネラーが出席し、生涯現役の必要性やそれぞれの課題を主張した。

労働組合からはJAM北陸の古田政敏書記長が出席し、70歳まで現役でいられる社会や企業の体制を整えていく必要性を主張した。

